



## 第7戦 FUJIMAKI GROUP MOTEGI GT 300KM RACE ツインリンクもてぎ

**決勝 11月 8日(日)**

天候:晴れ コース状況:ドライ

SUPER GT第7戦は第4戦に続きツインリンクもてぎ(栃木県茂木町)において開催。朝から天候にも恵まれ1万5,600人のファンがサーキットに詰めかけた。13時過ぎに300kmの決勝レースがスタート。26番グリッドからひとつでも上の結果を求め、阪口がステアリングを握った。

**決勝：22位**



前日、立冬を迎えたもてぎ。季節は冬とはいえ暖かく穏やかな日となり、スタンドには1万5,600人のファンが陣取った。決勝レースを前に11時40分から20分間のウォームアップ走行が行われ、我が6号車は8番手のタイムをマーク。前日から変更したセッティングが功を奏してマシンはその力を取り戻し、決勝レースでの活躍が期待された。

気温22℃、路面温度29℃の13時3分、シグナルがグリーンになりレースがスタート。阪口は混雑する隊列の中、オープニングラップで3つ順位を上げて23位に。さらに翌周に21位へ順位を上げた。阪口はベースの遅い車両をていねいに一台ずつオーバーテイクして行き、9周目には19位まで順位を上げ、さらに上位を狙った。

その後阪口は、シリーズランキングトップの65号車メルセデスAMGに追いつき、0.6~1秒ほどの差を保って周回。そして17周目には前方の車両がスローダウンしたこともあり18位まで順位を上げた。18周から早めのピットインをする車両が現れ、20周を迎えたところで阪口は予定どおりピットイン。順位を挽回するためにタイヤ交換をせず、給油とドライバー交代のみで時間を短縮するはずであったが、ピット作業に時間がかかってしまい、ほぼ同時にピットインした65号車メルセデスとは10秒近い差がついてしまった。

GT300クラスのトップ車両が23周目に入ったところで、1台の車両がコース脇に停止したためセーフティカー(SC)が導入された。この直前にピット作業を済ませてコースに戻っていた堤だったが、不運にもトップ車両の後方でコースに戻っていたことで、トップからは1周遅れの23位となり、この時点で勝負権を失うこととなった。

26周でSCが隊列から離れると、何台もの車両が一気にピットイン。堤は23位の単独走行となっていた。33周目のS字コーナーの2個目で、堤はMC86を追い越していくGT500クラスの車両と交錯して左フロントがGT500車両にあたってしまい、たまらずスピン。これで30秒近くをロスしたことで、順位は27位まで落ちることになった。

それでも粘り強く走り続けた堤は36周目、38周目にそれぞれひとつポジションを上げ、レース終盤35号車RC Fに詰め寄り、56周目の5コーナーでこれを捕らえ24位へ。さらにファイナルラップにはストップしてしまった車両があり、22位へ順位を上げてチェッカー。ポイント獲得はならなかったが、苦しい状況でも連続完走記録は「7」に伸ばした。

11月27~28日に富士スピードウェイで開催される最終戦は、ほとんどの車両がノーウェイトとなり、開幕戦同様のイコールコンディションでのバトルが展開される。今シーズンここまで積み重ねたデータを活かし、初優勝を目指すレースとなる。





## ドライバー 阪口 良平



「今日のレースは26番手スタートとは言え全然諦めてはいませんでした。ウォームアップでは良い兆候もあり行けるのかな？ という気持ちで走りましたが、遅い車両に引っ掛かり渋滞するような状況で、そのような展開が繰り返されました。65号車メルセデスと同じペースで走り、同時にピットインしましたが、ピット作業に時間がかかり10秒ぐらい差がついてしまいました。今日はしっかりデータが取れましたし、しっかり走りきることが絶対次につながると信じています。次はノーウェイトのレースでみんな同じ条件ですから、良い結果で締めくりたいと思います」

## ドライバー 堤 優威

「良平さんが18位まで順位を上げてくれて、ピットインで交代しました。そして直後にSCが入ったので8位ぐらいまで順位が上がったのではないかと興奮したのですが、ピットから出た時に、トップのすぐ後に入ったのでラップダウンになり残念でした。今回は決勝に向けて変更した部分が良いデータになったと思います。タイヤ無交換作戦は初めての体験でしたが、かなりきつく疲れまし、マザーシャシーの良いところも出せませんでした。今週末は全体的に流れが悪かったと思います。最終戦富士は今回の分を挽回するレースになると思います。次はサポートに徹してドライバーとチームの橋渡しができればと思います」



## チーフエンジニア 田中 耕太郎



「セーフティカーのタイミングでラップダウンというのは、予選が遅かったから仕方のないこと。あの周回でのピットインはあれで良かったと思います。ただピットストップで時間がかかってしまいました。シートベルトが入らずに時間を失ってしまい、あの時間があればタイヤ交換ができましたね。あっちもこっちもグズグズなレースになってしまったのは大きな反省点です。気持ちを切り替えて最終戦に臨みます。次は小高選手も走れると思うので、一年の締めくりとして頑張っていきます」